

カーライフを楽しむためのコミュニケーションペーパー

Keeper Fan!!

2013年SUPER GTに「KeePer TOM'S SC430」として参戦します!

SUPER GT… 国際自動車連盟(FIA)及び日本自動車連盟(JAF)公認のセダンタイプの自動車を用いた国際格式の自動車競技であり、国内では年間約50万人の観客動員を誇る最も大きなモータースポーツイベントのひとつ。

2013年は「#37 KeePer TOM'S SC430」TOM'Sから出場

2013年は、新たにTOM'S(株式会社トムス/本社:東京都、代表取締役会長:舘 信秀)とともに、SUPER GT GT500クラスでのレース活動を行うことに決まりました。

TOM'Sは、1974年に創業したレース界の老舗として国内外で実績のあるチームであり、トヨタ自動車が最も信頼するレーシングチームのひとつです。すでに#36 PETRONASカラーで参戦しており、我々の「#37 KeePer TOM'S SC430」を加え、2カー体制での出場。このレースにフルカラーで参加することによって、コーティングビジネスのコアのユーザーであろう「車好き」に、KeePerを強く印象付け、キーパープロショップなど施工店様の販売をサポートします。

最高時速300kmでの実験室

また、最高時速300kmにも及ぶスピードで駆け抜けるレーシングカーは、路面から舞い上がる埃や排気オイル、タイヤがすで汚れるなど、過酷な条件で戦うスポーツでもあります。KeePerは独自のコーティングの技術を活かし、過酷な条件で戦うレーシングカーを実験台として、各種のテストを繰返します。そこで得られたノウハウを、今後のコーティング技術開発にフィードバックしていきます。

参戦のチーム名は「LEXUS TEAM KeePer TOM'S」

監督には世界でも有名な伝統ある「ル・マン24時間耐久レース」で日本人初の総合優勝を飾った関谷正徳氏が担当し、ドライバーはベテランの伊藤大輔選手と、昨年この車で戦った戦友、アンドレア・カルダレッリ選手です。レース参戦直接の目的は宣伝



現状は基本カラーのみですが、キーパープロショップなどのロゴが貼り足されています。

活動であり、技術開発ではありますがスポーツとして参加するが、まずはシリーズチャンピオン獲得を目指します。

今年、日本国中のビッグサーキットで、ホワイトベースにブルーラインのKeePer TOM'S SC430が暴れまわります。最新の2013年仕様100%で、シリーズチャンピオンをねらいます。乞うご期待です。

3/2(土)・3(日)鈴鹿サーキットファン感謝デーで公開練習を実施!

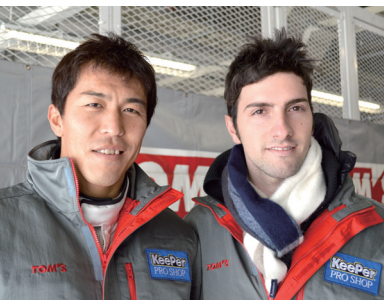
仕様も装いも新たになった「KeePer TOM'S SC430」が、鈴鹿サーキットファン感謝デーで走行を披露しました。まだスポンサーデステッカーがKeePer以外はほとんど入っておらず、KeePer PROSHOPなどのロゴがたくさん入っていると、また印象がすいぶん変わるだろう。今回は公開練習といっても、感謝デーの中のエキジビションとしての性格が強く30分走行1本だけで、本格的なテストはまだこれからだが、伊藤大輔選手は「今の時点で普通に走れたのは良かった」との評価。ともにTOM'Sから走る#36 PETRONAS TOM'S SC430の「白地に緑と銀のライン」に対して、#37 KeePer TOM'S SC430は、「白地に青と黄色のライン」でイメージの共通性を持たせたデザインだ。



「LEXUS TEAM KeePer TOM'S」 応援企画

キーパーコーティングを施工していただいている多くの皆様を、抽選でサーキットにご招待する企画を進めております。サーキットによって変わりますが100~200名様くらいで「LEXUS TEAM KeePer TOM'S」のピットの前のグラブスタンド席を陣取り、そろいのキャップで盛り上げていただきたいと思います。

ベテラン×ルーキーのコンビに期待! 伊藤大輔選手&アンドレア・カルダレッリ選手インタビュー



レース界の老舗チームTOM'Sへ移籍した心境は?

伊藤: 今回、TOM'Sという常に実績を作ってきた名門チームに移籍することになり、非常に楽しみにしています。チームのみんなも良い形で僕を迎えてくれたので、期待に応

えていきたいと思っています。

カルダレッリ: TOM'Sは、日本だけでなく、世界的にも有名な名門チームです。そこで仕事ができることをとても光栄に思い、うれしく感じています。

TOM'Sの魅力は?

伊藤: まずチームとしての強さは、毎年続いていることです。それと同時に僕はチームの雰囲気が強さに関係していると思っています。舘会長はじめ、首脳陣からメカニックの一人ひとりまで非常にいい雰囲気を築き上げているチームなので、そこに魅力を感じますね。関谷監督は、ドライバーと

して先輩でもありますし、豊富な経験を持っておられるので、ドライバーの気持ちやチームのあり方を非常に知っている方なので心強く思っています。

カルダレッリ: 雰囲気の良さもあるし、チーム全員が勝ちにくぞというスピリッツを固く持っていて、一つの目標に向かって、団結しながらもそれぞれが責任を果たすというようなプロフェッショナルなチームであることは間違いないですね。

伊藤選手は2008年に大きなケガをされ、見事復活を果たされましたね?

伊藤: 死んでいてもおかしくないような事故でした。でも自分が生かされたということは、まだやらなきゃいけないことが残っているんじゃないかなと思い、頑張ってリハビリしてレースに復帰することができました。レクサスに移籍してすぐの事故だったので、チームやメーカー、家族にも迷惑をかけ、心苦しい思いをしました。支えてもらった人たちに感謝しができるよう、結果を出していきたいと強く思っています。

ベテランの伊藤選手とルーキーのカルダレッリ選手のコンビですが、お互いにどう思われていますか?

伊藤: 彼はね、外国人ドライバーには珍しく、すごく素直。ドライバーとして速くなければいけないのは当たり前ですが、GTレースは1台の車を2人がドライブするため、お互いのドライビングスタイルや、それ以上に性格が合う合わないも大きなポイントです。まだ一緒に過ごした日数は少ないですが、非常にやりやすい感じのドライバーですね。若いからこれからどんどん成長いくでしょうし、彼に任せられる部分もどんどん出てくると思います。楽しみです。

カルダレッリ: 今年は大輔さんと組むと聞いたときにはとてもうれしかったです。経験も豊富だし、たくさんの成績も収

アンドレア・カルダレッリ (Andrea Caldarelli)

2005年に15歳で4輪レースに参戦。その後、フォーミュラ・ルノーにて数々の好成績を収める。07年、トヨタ自動車の若手レーシングドライバー育成プログラムTDPと契約。翌年からトヨタF1チームのテストドライバーとしてF1マシンの開発に寄与する。10年にはイタリアF3選手権に参戦する傍ら、フェラーリF1チームのテストドライバーとなり、11年来日。コンドーレーシングより全日本選手権フォーミュラ・ニッポンに参戦する傍ら、GP2レースに参戦。12年よりLEXUS系レーシングチームよりスーパーGTシリーズに参戦。



めていらっしやるので。去年は2人ともルーキーというコンビで闘い、成長はしたと思いますが、ベテランと組むことでまた違った成長があると思います。活躍できるチャンスが広がったとわくわくしています。

今年のSUPER GTシリーズをどう闘っていきますか?

伊藤: そうですね。スーパーGTの面白さの一つにハンディウェイト制があります。いい結果を残したら次のレースで重りが積まれます。もちろん開幕から優勝し、常にシリーズをリードしていくのがベストだと思っていますが、理想通りにいかなかったとしても、逆にハンディウェイト制をうまく使って巻き返すこともできるので、自分たちが得意としているサーキットでは、確実にポイントを取っていききたいです。ファンの皆さんに良いレースを見てもらえるように頑張ります!

カルダレッリ: シーズンがスタートするまでの準備期間が長くないので、序盤からできるだけ早くいい成績を出していきたいです。いろんな波はあるかもしれませんが、常にポイントは必ず取っていく、0ポイントにはならないように序盤から勝負していきたいと思っています。潜在的な可能性は大きいと思いますので、常に前を向いてレースに臨みます!



伊藤大輔

1992年、16歳でカートレースに参戦。95年に鈴鹿フォーミュラレーシングスクール(SRS-F)第1期生として入校し、96年にはフォーミュラトヨタシリーズに参戦。97年より全日本F3選手権参戦。99年のマカオGPにて総合3位の成績を収める。2000年にナガジレーシングより全日本GT選手権に参戦。翌年からHONDA系のレーシングチームでエースドライバーとして活躍し、2度シリーズチャンピオンを獲得。08年からLEXUS系のレーシングチームに移籍してスーパーGTシリーズに参戦。